

高等学校日语教材

大学日本语 泛读

(修订版)

刘利国 编著

大连外国语学院日本语学院 组织编写

大连理工大学出版社

高等学校日语教材

大学日本语泛读

(修订版)

刘利国 编著

大连理工大学出版社

图书在版编目(CIP)数据

大学日语泛读/刘利国编著. —修订版. —大连:
大连理工大学出版社, 1999. 3

(高等学校日语教材)

ISBN 7-5611-0864-8

I. 大… II. 刘… III. 日语-阅读教学-高等学校-
教材 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字(1999)第 05217 号

大连理工大学出版社出版发行

(大连市凌水河 邮政编码 116024)

大连业发印刷厂印刷

开本: 850×1168 毫米 1/32 字数: 411 千字 印张: 16.5

印数: 5001—11000 册

1994 年 10 月第 1 版

1999 年 3 月第 2 版

1999 年 3 月第 2 次印刷

责任编辑: 王佳玉

责任校对: 李 鹤

封面设计: 郭莹莹

定价: 19.80 元

再版前言

本书是在 1994 年版的基础上重新修订而成的,适用于大学日语专业二年级以及具有同等语言程度的大专自考、夜大、电大学员和自学者使用。全书共由 35 课组成,分为七个单元,每 5 课为一个单元。共计大约需 120 个学时学完。当然,授课教师也可根据各类学校的教学实际,在授课时进行适当的删减。

本着知识性与趣味性相结合这一泛读课的教学特点,在修订过程中,广泛征求了学习者与授课教师的意见,删除了一部分较易或较难的文章,新收了一部分知识性、趣味性较强的文章,同时还根据众多学习者的要求,增添了详尽的单词注释、短语解释、参考译文以及模拟试题等。此外,为了排版等需要,还对部分课文的原文做了必要的技术性处理。

由于编者水平有限,在编写过程中,难免会出现诸多疏漏,恳请有关专家和学习者提出批评指正。本书在修订过程中,承蒙邵玉英先生的热情指点与帮助,同时还得到了本书责编王佳玉女士的热情鼓励与大力支持,值此付梓之际,谨表谢意。

编者

1999 年 1 月 于大连

目 次

第 1 課	みつばちのダンス……………	1
第 2 課	ひらけていく海……………	4
第 3 課	一つが二つ……………	9
第 4 課	野ばら ……………	18
第 5 課	手紙 ……………	28
第 6 課	動物の変装 ……………	35
第 7 課	かわいそうな象 ……………	41
第 8 課	橋 ……………	51
第 9 課	深海をさぐる ……………	59
第 10 課	海……………	65
第 11 課	手ぶくろを買いに……………	79
第 12 課	季節風と日本人……………	89
第 13 課	内閣と政府……………	98
第 14 課	人類文化のあけぼの ……………	108
第 15 課	川と人間 ……………	118
第 16 課	にれの町 ……………	129

㊦ 大学日本語泛読 ㊦

第 17 課	墓から見た古代の日本	136
第 18 課	新聞とその読み方	145
第 19 課	「知る」ということ	160
第 20 課	正倉院	168
第 21 課	自然を守る	174
第 22 課	天下一の馬	185
第 23 課	四季	199
第 24 課	鳥はどこでどう寝るか	215
第 25 課	社会のなかの青年	226
第 26 課	大造じいさんと雁	235
第 27 課	人類と環境	250
第 28 課	天声人語(四篇)	265
第 29 課	人間を知るために	278
第 30 課	片耳の大シカ	284
第 31 課	風景との出会い	299
第 32 課	青春について	305
第 33 課	現代詩の鑑賞	315
第 34 課	活字中毒者の一日	322
第 35 課	ふるさと志向的行動	335
参考译文		358
模拟试题(一)		496
模拟试题(二)		503
模拟试题(三)		510
参考答案		517

第 1 課

みつばちのダンス

①一ぴきのみつばちが、花畑でみつを吸っています。そのみつばちがとび去ると、何分かして、たくさんのみつばちが次々とみつを吸いにやってきます。どうして、花畑が分かるのでしょうか。

②ある学者は、はじめの一ぴきのみつばちが、すばこに帰って、なかまに教えたのではないかと考えました。そして、次のようにして、みつばちを観察しました。

③はじめに、すばこから十メートル離れた所に、花のみつのかわりに、さとう水を入れたさらを置きました。目じるしをつけた一ぴきのみつばちが、さとう水を吸って、すばこに帰ってきました。注意ぶかく見守っていると、そのみつばちはダンスをはじめました。右回りや左回りに、円をえがくようにダンスをするのです。それが合図になって、なかまのみつばちは、次々とび出して、さとう水の所へ行きました。

④次に、三百メートル離れた所にさとう水のさらを置いて、同じように観察をしました。すると、今度も、みつばちはダンスをしました。しかし、よく見ると、ダンスのしかたがちがっていて、8の字を書くように踊りました。それが合図になって、やっぱりなかまのみつばちは、次々にさとう水の所へとんでいきました。

⑤この二つの観察から、みつばちは、ダンスでえさのある場所

をなかまに教えるのだということが分かりました。

⑥しかし、みつばちは、なぜ、はじめに円のダンスをして、次に8の字のダンスをしたのでしょうか。

⑦そこで、その学者は、すばことさとう水との距離をいろいろにかえてみました。すると、みつばちは、だいたい百メートルよりも近い所にえさがあるときは円のダンスで教え、百メートルよりも遠いときは8の字のダンスで教えるということが分かりました。

〔光村図書出版株式会社発行「小学新国語三年上」による〕

【第1課词汇】

みつばち(蜜蜂)	[名]	蜜蜂
ダンス	[名]	跳舞, 舞蹈
はなばたけ(花畑)	[名]	花田, 花圃
みつ(蜜)	[名]	蜜, 蜂蜜
すう(吸う)	[五他]	吸, 吸入
とびさる(飛去る)	[五自]	飞走
つぎつぎ(次々)	[副ニト]	接连不断, 一个接一个
やってくる(やって来る)	[连语]	(「来る」的强调形)来
すばこ(巢箱)	[名]	蜂箱
なかま(仲間)	[名]	伙伴
さとうみず(砂糖水)	[名]	砂糖水
さら(皿)	[名]	碟子, 盘子
めじるし(目印)	[名]	记号, 标记
ちゅういぶかい(注意深い)	[形]	仔细, 细心
みまもる(見守る)	[五他]	注视, 观察
えん(円)	[名]	圆

あいず(合図)	[名・ス他自]	信号, 暗号
しかた(仕方)	[名]	方法, 方式
おどる(踊る)	[五自]	跳舞, 舞蹈
やっぱり	[副]	(「やはり」的口语形)同 样, 也
えさ(餌)	[名]	饵, 饲料

【手引き】

1. この文章には、①から⑦まで番号がつけてあります。それぞれ、どんなことが書いてあるか、考えてみましょう。
2. ①では「どうして」と疑問をなげかけています。それはどんな疑問ですか。なぜ、その疑問をもったのですか。
3. ②では、ある学者は、どんなことを考えましたか。
4. みつばちを観察したことは、何番に書いてありますか。どんな観察をしましたか。
5. 観察によって、どんなことが分りましたか。それは何番に書いてありますか。
6. もっと調べると、どんなことが分りましたか。



第 2 課

ひらけていく海

加古 里子

あなたは、海を見たことがありますか。

——青く広がった海。

——はるかな遠い水平線。

——よせてくる波、くだけちる波。

海岸に立って海を見ていると、希望が湧き、心があらわれるような気がします。わたしたちの住んでいる日本は、この海にかこまれた国です。

いったい、地球上で、海と陸とは、どちらが広いのでしょうか。それは海です。海は、地球の表面の十分の七をしめているのですから、海のほうが、陸地よりもはるかに広いのです。

広いだけではありません。陸地でいちばん高い所は、エベレストという山のいただきの、八千八百メートルあまりですが、太平洋の中にある、海でいちばん深い所は、一万一千メートルをこえるのです。

また、もし陸地をけずって海をうめたとしたら、地球全体は、深さ二千四百メートルの海になってしまうことが、計算されています。

この広くて深くて大きな海を、人間は、むかしから、いろいろ

なことに使ってきました。

まず第一に、海には、魚や貝がいます。海草があります。人間は、それらを取って食べ物にしてきました。

第二に、海に重い物をうかべて運んだり、船でほかの土地と行き来をしたりしました。ほかの国の人と品物を売り買いするのも、船に乗せて、海の上を運びました。

第三に、海水には、いろいろの物がとけこんでいます。たとえば塩です。陸地全体を百五十メートルのあつきでおおってしまうほどたくさんの塩が、海水にとけています。人間は、それを取り出して使ってきました。そのほか、金・銀・銅・なまり・アルミニウムなどもふくまれています。

海のそこには、石油や石炭などもうずまっています。ダイヤモンドや鉄などがあることもわかってきました。ですから、これらをほり取って使うことがこころみられています。

また、海の水から真水を取ったり、潮の流れや波の動きで電気を起こしたりする研究も進み、次々に、人間の生活に役だてられるようになりました。

けれども、海の中へ太陽の光がとどくのは、わずか二百メートルぐらいの深さまでです。そこから先は、まっ暗な、やみの世界です。そのうえ、深くなればなるほど、海水の圧力が大きくなります。ですから、深い海の中を調べたり、そこで仕事をしたりするのは、地上にくらべて、たいへんむずかしく、不便です。

そのむずかしさや不便をのりこえて、人間は、海をさぐろうとしています。深い海を調べることのできる、特別のせんすいとも作られました。海の底にあなをあけたり土や岩をほり取ったりする機械も考え出されました。

こうした進んだ科学の力によって、海のようにすは、しだいによくわかってきました。今まで知られていなかった深い海のめず

らしい生物も、次々に発見されています。

けれども、この大きな広い深い海について、人間が知っていることは、まだまだほんの少しです。海を研究して人間の生活に役だてることは、これからますます進んでいくでしょう。

ただ、わすれてならない大きな問題は、海と人間は、ともに生きていかなければならないということです。人間の不注意や自分から、海をよごし、海をこわしてはなりません。

青く広がる美しい海——それは、人間の希望のしるしなのです。

[学校図書株式会社発行 「小学校国語三年下」による]

【第2課词汇】

ひらける(開ける)	[下一自]	宽阔, 宽敞
はるか(遙か)	[副・タナ]	遥远
すいへいせん(水平線)	[名]	水平线
よせる(寄せる)	[下一自]	接近, 逼近, 冲来
くだけちる(碎け散る)	[五自]	(浪花)四溅, 破碎
わく(涌く)	[五自]	涌起, 升起
ひょうめん(表面)	[名]	表面
しめる(占める)	[下一他]	占据, 占
エベレスト	[名]	珠穆朗玛峰的别称 (由英国人命名的)
いただき(頂)	[名]	顶峰, 山顶
たいへいよう(太平洋)	[名]	太平洋
こえる(超える)	[下一自]	超过
けずる(削る)	[五他]	削平, 铲平
うめる(埋める)	[下一他]	埋, 填

かい(貝)	[名]	贝
うかべる(浮べる)	[下一他]	使……漂起, 使……浮起
ゆきき(行き来)	[名]	往来, 交往
しなもの(品物)	[名]	物品
うりかい(売り買い)	[名・ス他]	买卖
とけこむ(溶け込む)	[五自]	溶解, 融化
しお(塩)	[名]	盐, 食盐
おおう(覆う)	[五他]	覆盖, 蒙上
きん(金)	[名]	金, 金子
ぎん(銀)	[名]	银, 银子
どう(銅)	[名]	铜
なまり(鉛)	[名]	铅
アルミニウム	[名]	铝
せきゆ(石油)	[名]	石油
せきたん(石炭)	[名]	煤
うずまる(埋まる)	[五自]	被埋上
ダイヤモンド	[名]	钻石, 金刚石
てつ(鉄)	[名]	铁
ほりとる(掘り取る)	[五他]	挖掘, 采挖
こころみる(試みる)	[上一他]	尝试, 试试看
まみず(真水)	[名]	淡水, 净水
しお(潮)	[名]	潮汐
とどく(届く)	[五自]	达, 及
わずか	[副・ダナノ]	仅仅
さき(先)	[名]	前边, 下边
やみ(闇)	[名]	黑暗, 暗夜
あつりょく(圧力)	[名]	压力

のりこえる(乗り越える)	[下一自]	克服, 渡过
さぐる(探る)	[五他]	寻找, 探索
せんすいてい(潜水艇)	[名]	潜水艇
ようす(様子)	[名]	情况, 情形
しだいに(次第に)	[副]	逐渐, 渐渐地
せいぶつ(生物)	[名]	生物
ほんの	[连体]	仅仅, 少许
ふちゅうい(不注意)	[名・タナ]	不注意, 不小心
じぶんかって(自己勝手)	[タナ]	任性, 随自己的便
よごす(汚す)	[五他]	弄脏, 玷污

【作者紹介】

加古 里子(かこ さとこ):未詳。

【手引き】

1. 海と陸の広さや高さ、深さの違いを、数字で説明しましょう。
2. 人間にとって、海がどんな役にたつのですか。
3. 深い海の中を調べたりするのがたいへんむずかしく、不便なのに、人間はなぜ、それをしなければならないのでしょうか。
4. 海はなぜ、「人間のきぼうのしるし」なのでしょうか。
5. あなたが始めて海を見たときの気持ちを思いうかべながら、みんなに聞かせてみましょう。

第 3 課

一つが二つ

小沢 正

山の竹やぶに、虎がすんでいた。名まえは、トラノ・トラゴロウといった。

ある日、トラゴロウが、野原で、山の動物たちとあそんでいると、きつねが、大きなたるを引っばってやってきた。

たるには、大きなハンドルと、小さなベルと、めもりがたくさんついていた。きつねは、ひげをぴこぴこ動かしながらじまんそうに言った。

「これは、一つのを二つにふやす機械だよ。ほくが、長いあいだ研究してやっと発明したんだ。」動物たちは、すっかり感心して、たるのまわりにあつまった。

「一つのを二つにふやすなんて、すごいなあ。ためしに、ほくのりんごを、二つにふやしておくれ。」

さるが、もっていたりんごを、きつねに渡した。

きつねは、たるのふたをあけて、りんごを入れると、ハンドルをぐるぐる回しはじめた。めもりのはりが、ふらふら動きはじめた。そして、しばらくすると、ベルがチーンとなった。きつねは、たるのふたをあけて、りんごを二つとり出した。

ほんとうに、一つのにりんごが、二つにふえたんだ。動物たち

は、思わず、ぱちぱちと拍手をした。きつねは、とくいそうにひげをひねった。

「すごい、すごい。ぼくには、このにんじんをたのむよ。」

うさぎは、きつねに、にんじんを渡した。きつねは、にんじんをたるの中に入れると、ハンドルをぐるぐる回しはじめた。しばらくすると、やっぱり、ベルがチーンとなった。きつねは、たるの中から、にんじんを二本とり出して、とくいそうにひげをひっぱった。

動物たちは大よろこびで、つぎつぎに、自分のすきなものを、二つにふやしてもらった。さいごにトラゴロウのばんになった。

「トラゴロウ、きみは、何を二つにふやしたいんだい。なんでもすきなものを、ふやしてあげるよ。」

と、きつねが言った。

トラゴロウは、何ももっていなかったので、すっかりこまってしまった。ところが、青い空をながめながら考えているうちに、いいことを思いついた。

「そうだ。ぼくは、ぼくを二ひきにふやしてもらおう。そうすればさ、ぼくが竹やぶの中でひるねをしているあいだに、もう一ひきのぼくに、にくまんじゅうをさがしてもらったりできて、とても便利だもん。ね、そうだろう。」

「そうかもしれないね。じゃあ、トラゴロウ、機械の中におはいりよ。」

きつねは、すこしびっくりして、目をぱちぱちさせながら、トラゴロウを、たるの中にぎゅうぎゅうおしこんだ。

ところが、ハンドルを回そうとすると、おもくてなかなか回らない。きつねは、顔をまっかにして、よっころしょ、うんころしょと、ハンドルを回した。

めもりのはりが、ふうらふうらと動きはじめた。しばらくす

ると、ベルがチーンとなった。

そのとたん、バリバリンとすごい音がして、たるは、ばらばらにこわれてしまった。そして、こわれたたるのあいだに、二ひきのとらが、びっくりしたように、顔を見あわせながらすわっていた。

動物たちは、大声でたずねた。

「いったい、どっちが、ほんとうのトラゴロウなんだい。」

すると、二ひきのとらが、声をそろえて返事をした。

「ほくが、ほんとうのトラゴロウさ。」

そして、右がわのトラゴロウが、左がわのトラゴロウに言った。

「ほくは、これから竹やぶにかえて、ひるねをはじめるから、おまえは、そのあいだに、にくまんじゅうをさがして、もってこい。」

すると、左がわのトラゴロウが、右がわのトラゴロウに言った。

「何言ってるんだい。竹やぶにかえてひるねをするのは、ほくのほうだぞ。おまえこそ、ほくがねているあいだに、にくまんじゅうをさがしてこい。」

それをきくと、右がわのトラゴロウは、かんかんにはらをたてて、左がわのトラゴロウにどなった。

「なまいき言うのと、しょうちしないぞ。ほくが、ほんとうのトラゴロウなんだぞ。」すると左がわのトラゴロウも、目を三かくにして、右がわのトラゴロウをどなりつけた。

「うそばかり言ってら。ほんとうのトラゴロウは、ほくじゃないか。」二ひきのトラゴロウはかんかんにはらをたてた。そして、ぱっとあいてにとびかかると、ドタンバタン、くみうちをはじめた。